

活動報告

災害フォーラム「地震・津波と台風・竜巻—東日本大震災の教訓と地震・台風による被害の軽減化を目指して—」

災害委員会委員（九州支部担当） 日高圭一郎（九州産業大学）

2011年3月11日の午後、東北地方太平洋沖で発生したM=9.0の超巨大地震は、広域にわたる津波により約2万人の尊い命を奪うなど、経済的損失も含めてわが国の歴史的な大災害になった。

沖縄地方は台湾に近い先島地域を除いて大地震の再現期待値は一般に低いと思われるが、今後30年以内に震度6以上の揺れに見舞われる確率は24.9%であり、現在全国19番目の高さである。また、沖縄地域は大型台風の常襲地域でもあり、毎年少なからぬ被害が発生している。

今年で4回目になる，“地震被害”と“強風被害”を同時に解説する九州支部合同企画の災害フォーラムを2011年9月22日（木）に沖縄県那覇市で開催した。本フォーラムには一般市民の他、沖縄県庁、那覇市教育委員会、沖縄气象台、構造設計事務所、地元ゼネコンなどから164名の参加があった。本フォーラムは、日本建築学会東北支部長の田中礼治東北工業大学客員教授による特別講演「東日本大震災の被害と教訓」に続いて、「建築物の強風被害について」、「九州・沖縄の強風観測と被害」、「学校校舎の耐震安全性と補強法について」、「沖縄地域の地震とその過去・現在・未来」、「沖縄の既存RC造建築物の耐震診断結果」、「沖縄の地震地域係数と耐震性能そして耐震補強」の6題の講演が行われ、最後に会場との意見交換を行った。会場からは、東日本大震災に関心が高く、各講師からの回答の中で、島国の沖縄には津波はあらゆる方向からやってくる島嶼特有の現象があること、八重山津波(1771年)の再来に関する話題、台風による農業施設被害の対策など多くの質問が寄せられた。意見交換は当初予定時間を大きく上回り、自然災害に対する地元市民の関心の高さが示された。

最後に、本フォーラム開催のご支援を戴いた、本会本部災害委員会に厚くお礼申し上げます。



開会挨拶



特別講演



一般講演



一般講演



一般講演



会場との意見交換

